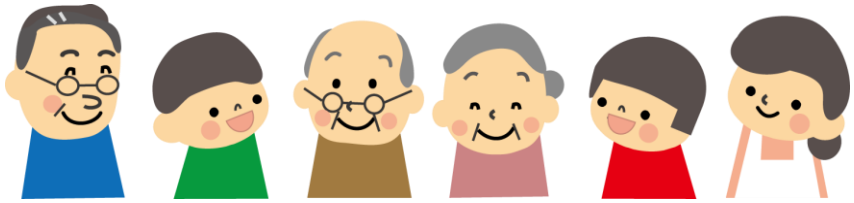
田無スマイル大学　フューチャー・セッション＠西東京

「10 年後、わたしたちがもっとワクワクするまちについて話してみよう！」

第二回テーマ「防災」についての報告



日時：2013 年 2 月 10 日（日）10：00～13：00、交流会～15：00
場所：コール田無イベントルーム A、託児 4B＋コミュニティルーム

主催者挨拶

7 班に分かれて自己紹介

HUG 体験

各班で情報共有

W カフェで感想を言い合う

α米体験

主催：田無スマイル大学実行委員会　　共催：対話ラボ
後援：ソーシャルグッド西東京、西東京市、西東京市社会福祉協議会

１．　参加人数

- 参加者：43 名（スタッフ 10 人を含む）
- 託　児：子ども 5 人、ボランティア 5 人
- 参加者の構成：男性 18 名、女性 25 名：（大学生 1 人、社協 4 人、西東京に在住・勤務していない人 6 人）（1 歳～80 歳）

２．　大まかな流れ

① 挨拶・本日の目的（10:00-10:05）

フューチャー・セッションというのは、私たちの暮らしを良くするには、まちを良くする必要があるーでも、行政に任せっぱなしにしたり、文句を言ったりするだけでなく、自分達でやれること（行政の監視も含め）はやって行こう、という気持ちで始めた。昨年 11 月に第一回を開催、「未来を担う子ども」がテーマ。

第二回の今回は、「防災」がテーマ。防災とひと口に言っても幅が広いが、今日は、避難所運営に絞り、そこに押し寄せてくる避難者を収容するゲーム（HUG と呼ばれています）をやります。このゲームを通して、防災を自分ごととして考えるようになると思います。

その後、避難所運営に限らず、防災について何が大切か等々につき意見交換する予定です。

② HUG のためにくじを引いて 7 チームに着席、チームごとに自己紹介（10:05-10:20）

（自己紹介：①呼ばれたい名前、②住んでいる所、③3.11 の時居た場所。司会：対話ラボハル）

③ HUG の説明（説明者：藤江）と HUG の体験（10:20-10:35、10:35-11:30）

説明を聞いた後、ともかく始めてみる（人に見立てたカードをスタッフが並べる：避難者が押し寄せてきたイメージ）。カード情報を読み取りながら、体育館や教室に収容する。最初座っていた参加者たちがだんだん立ち始める。

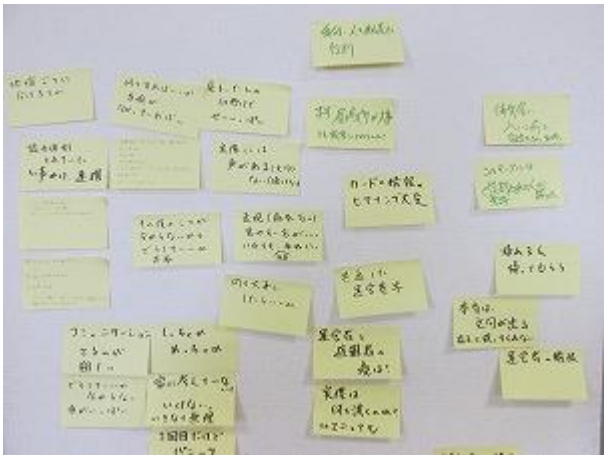
ときおり、「イベント」と呼ばれる出来事が読み上げられる。たとえば、「毛布が 20 枚届いたので、配って下さい」とか、「プールの水を消火活動に使ったので無くなってしまった、トイレをどのようにしたらよいか考えて欲しい」などなど。

機械的にカード（避難者）を体育館などに収容するだけでなく、カード（避難者）には、高齢者、外国人、障害を持つ人などもいるので、足の悪い人は一階の教室にした方が良いのではないか、ペットはどうしようか等々さまざまな判断を求められます。

写真で見るように、次第に皆の背中が前のめりになり、真剣さが漂っています。会場の暖房を消し、窓を開けるほどの熱気でした。

（注）HUG は、静岡県が開発し販売しているものです。今回は、カードや校庭図、体育館図、教室図は、もともとの HUG で用意されているものを使用しました。一方、参加者が置かれている状況や出来事（イベント）などについては、参加者が短時間で、よりいろいろと考えることができるよう、田無スマイル大学で独自に工夫しました（詳細は【別紙1】）。また、体育館と校庭とでは、図の縮尺が異なるので、作業しやすいよう、自家用車やペットの小物も用意しました。

④ チームごとの話し合い→チーム間での情報共有（司会：以下ハル）（11:30-12:00：休憩を含む）



ポストイットに書かれていた主な情報は、次のようなものでした。

HUG の体験については、「2 回目だけど、パニック→何度も練習が必要」というご意見に代表されるように、とくに始めての方は、押し寄せる避難者をどのように処理するか判断するだけで頭が一杯となり、時折だされる出来事（イベント）への対応にオロオロしたという印象でした。これが、ゲームではなく、実際に起きたことだったら、どんなに大変だったろうとの感想が多くありました。

避難所運営については、今回は、「はじめに到着した人＝本日の参加者が、ともかく運営を始めたという設定で、その後、本来の避難所を運営する組織に引き継ぐ」という前提で行いました。雨の降る寒いなか、続々と押し寄せる避難者を放っておけず、ともかく運営を始めたという設定です。

このため、何の権限もない運営者の言うことを皆（避難者たち）が納得してくれるのだろうか、実際なら、文句が出るかもしれないとのご意見もありました。

現在、西東京市では、一時避難所になっている小中学校が中心となり、地域の自治会の方などと「〇〇学校避難所運営協議会」が設置されつつありますが、災害が起きた時、すぐに、その体制が取れるとは限らないのではないかとの想定のもとに、今回は、その体制が整うまでの間、自分達が運営せざるをえないという設定にしてみました。

また、避難所を運営するにあたっては、いろいろな役割が必要であり（受付、受付と避難所との連絡係、毛布やカイロなど物資の配布係等々）、そうしたマネジメントができるリーダーを日頃から養成しておく必要があるのではないか、また、人手が不足するので、元気のよい避難者に運営スタッフになってもらう必要があるとの工夫についてもアイデアが出ました。

誰が運営スタッフか分かるためや、医者、看護師等々の得意技を明記したガムテープを胸に貼りつけると良い。避難者についても、地域や持病などの情報をガムテープに書いて胸に貼り付けるとか、手ぬ

ぐいを鉢巻にして、そこに書くと良いのではと、情報を明示する工夫についてのアイデアがありました。

HUG をやってみて、女性（着替え・授乳など）や、高齢者、障害者、病人などへのきめ細かい配慮が必要との意見がありました。命の優先順位をつけるのが難しいとの感想も（配慮はしたいが、被災し、物資がないなかで、どうするのか。ペットについても、判断が難しい）。

部屋の割り振りを決めておく必要がある、今回は配慮しなかったが、地域ごとに固まってもらうことも必要かもしれない（顔見知り）という意見がありました。避難所が一杯になってきたら、全壊以外の人には、「自宅に帰ってもらう」という選択も必要かもしれない。避難所運営に関する、大まかなルールを前もって作っておいた方がイザとなった時混乱しないのではないかとの意見も。

⑤ テーブルを並べ替え（10 テーブルへ）、新たに 3～4 人ごとのチームで話し合い（12:00-12:45）

（なるべく、HUG のチームとは別々になるような工夫をした：各人の椅子に 1 ～10 までの番号を貼り付け、その番号のテーブルに着く方式）

問い：今日参加して、どんなことを大事にしていきたいと思いますか

上記の「問い」について、2 ラウンド（一度人が移動し、15 分ずつ、別の人たちと）話し合った。

模造紙には、たくさんの多様な意見が出ており、中には、今回の避難所運営に関わるものもありましたが、日頃からの備えについても意見が出ていました。以下にいくつか挙げておきます。

1．　近所付き合いの重要性

日頃からご近所の方と顔見知りになっていた方が、イザというとき情報を得やすいし、心強い。町内会や自治会の復活が必要というご意見が多くありました。小さい範囲で顔見知りや情報（どこに独居老人がいるか、子どもがいるかなど）を得て置くことが必要。

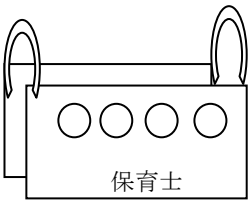
一時避難所である小学校単位で避難所運営協議会のようなものが出来つつあるということは、地域コミュニティの復活になるのではというご意見も。学校選択制などが導入されているが、むしろ近くの学校に行かせたい（それによって地域のつながりができる）。

災害が起きてからよりも、起きる前の繋がり作りが必要。この頃は、自助、共助、公助に加えて「近所」と言われている。

一方で、コミュニケーションを図れるか、苦手な人もいるのではという不安感も。

2．　平時から名札を用意・防災鍋等の活用

平時から、自分の名前と地域、得意技（看護師、IT できます等）を書いたゼッケンを用意しておくと良いという具体的なご意見も。



炊き出し訓練など、祭りやイベントを利用して、防災用の鍋を使うなど、備蓄を日頃から身近に感じておくことが必要。

3．　他力本願はダメ、HUG 等の訓練を何度もやる・広める

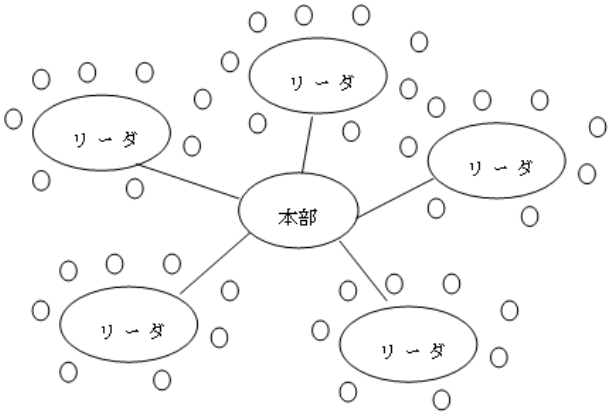
避難所に行ったら何かしてもらえるという他力本願はダメ。主体的に動く人になることが必要。今日の HUG のような防災訓練を日頃からしておくことが必要。これを広めた方が良い。自分の地域、あるいは、学校、幼稚園・保育園、老人の集う所、病院、児童館等々でやると良い。行政等に任せるのではなく、気づいた人が率先して（訓練を）やることが大切。

HUG だけでなく、体育館を借りて実際の訓練もした方が良い。中原小運協では、生涯学習ということで、体育館を借りて実際にやってみた（宿泊は認めらなかった、参加した人たちは、他力本願型だった）。

自助：3 日間は、自分で暮らせるような用意を。

4．　HUG の体験での気づき

初動がとても大切だと思った。「指揮権の同意システム」が必要。



こういう時にリーダーになれる人を養成しておく必要がある。

眼で見てすぐに分かるマニュアルを作っておく必要がある。避難所では、「皆で乗り切りましょう！」と皆が協力者になるようにする必要がある。

避難所内で決まるローカル情報（トイレの使い方、更衣室設置など）を皆に知らしめるためにホワイトボードなどでの掲示が必要。

5．　避難所は安心の場・情報共有の場でもある

避難所に人が行くのは、単なる「避難」に止まらず、そこに行けば生のいろいろな情報が集まっている・得られると思っていく場合もある。避難所には、そういう機能も求められている。

3.11 の時、子どもを抱えた若いママ達が不安で、「神社に行こう！」というメールが流れて、皆で神社に集まり、情報交換して落ち着いたという話がある。こういう住民の不安感と行政や社協など業務でやっている組織との間には気持ちに距離感がある。

6．　平日には、働き手が地域に不在

PTA には、父さんいない、母さんの意識低い（子供が居るのでを口実に地域活動しない）。高齢者は避難所までたどり着けない。土日なら父さんいるが、平日は不在。働き手はいないかもしれ

ない。地元で働いている人、農業、商店街の人がイザという時重要だ。→今回のテーマとは異なるが、「職住近接」を実現することも、防災とつながってくる。

行政が来るまでに時間がかかるのではないか。体育館等の鍵を持っている先生が何分でたどり着けるのか。備蓄倉庫の鍵がどこにあるのか分からなかった。

⑥ 全体共有（12:45-13:00）

手を挙げて、今日どうしても皆に伝えたいことがある人が情報提供。

⑦ 交流会（13:00－）

⑥の時間帯に、スタッフがα米の梱包を外し、熱湯を入れて蒸した。13 時で帰られる方もおられたので、セットに用意されている容器によそい、箸、ゴマも加えて、お持ち帰り頂いた。

子どもが託児されている場所では、持ってきているお弁当を食べてはいけないため、イベントルームＡで、お弁当や用意したおにぎりを食してもらった。その後、残っている参加者がα米を体験、「予想外に美味しい」などと言いながら、一日を振り返り、防災について話し合った。

「ゆめこらぼ」内田さんより、今後、防災をテーマに活動したいと考えており、相談して欲しい旨伝えた（チラシができましたらお送りします)。

また、危機管理室から頂戴した、「防災マニュアルのダイジェスト版」と主催者が用意した「西東京市立学校災害時対応マニュアル（H24 年 3 月　西東京市教育委員会))（抜粋）を説明し、資料を持ち帰ってもらった。

⑧ アンケート【別紙２】

● なお、記録写真は、縮小して田無スマイル大学のフェイスブック・ページに掲載されています。
https://www.facebook.com/konochan0430#!/tanashismileuniv

● ポストイットを全部書きだしたもの、模造紙の書き込みを書き出したもの、及びそれぞれの写真については、富沢が持っていますが、似たような書き込みがあったり、縮小すると読みにくかったりしますので、必要な方は個別におっしゃって下さい。

● 田無スマイル大学では、「HUG」を１セット（カード４組、説明書、平面図原本）所有しています。これにつきましては、１セット 500 円で貸出致します（PBA01177@nifty.com　富沢までお申し出下さい）。静岡県が無料で貸出していますが、送料負担（800 円×往復）かかります。また、価格は 6,780 円で 2 ヶ月待ちです。http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/manabu/hinanjyo-hug/index.html

＋＋

【別紙１】避難所運営ゲーム（藤江作成）

1. 避難所運営ゲーム(HUG)とは

- 避難所で起こる様々な出来事を模擬体験するゲームです。
- 避難者の状況が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図に配置しながらゲームを進めます。

2. 避難所運営に必要なこと

- 運営組織づくり
- 避難者へのスペースの割り振り
- 問い合わせや取材への対応、名簿の作成
- 食料、物資の受け入れ、配給
- トイレ、ごみ、シャワー、ペット
- ボランティアの受け入れ　　などなど

3. ゲームの設定(ゲーム上であなたが置かれている状況)

- 2013 年 2 月 12 日(火)13 時に、関東地方でマグニチュード 8.0 の直下型の大地震が発生。
- 気温は7℃、天候は小雨。
- 全ての公共交通機関はストップし再開の見込みがたちません。
- あなたは被災した場所から最寄りの避難所である〇〇小学校に避難して来ました。

- みなさんが避難所に到着したのは 14 時。今から 21 時までの間、避難してきたあなた達で避難所の運営を始めなければなりません。
- 21 時には「本来避難所運営を担うことになっていた組織」に運営を引き継ぐことになっています。

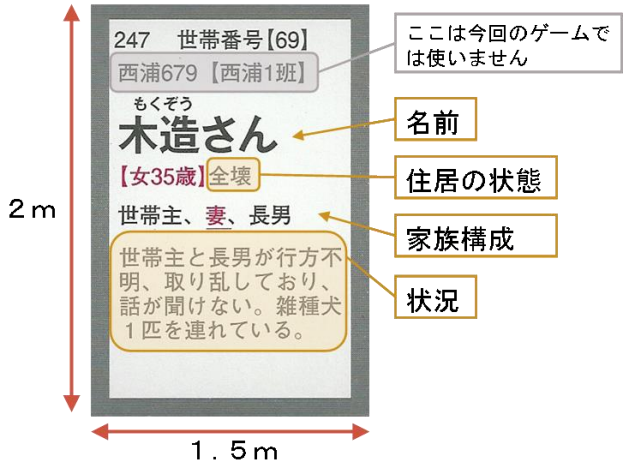
- 各学校にはそれぞれ子供が待機しており、避難者は一部の施設のみ使用できます。
- 教職員たちは子供を迎えに来てしまった保護者の対応などで手一杯です。
- 学校にある筆記用具、テント(2 張)、バケツは使用できます。
- ライフライン等
  - 電気、ガス、水道　→×
  - 電話　　→つながらない
  - 救護所の設置　　→翌日以降

4. ゲームのやり方

- 意思決定の仕方や運営体制などについてあらかじめの規定はありません。
- ゲームを進める中で、各チーム内で必要に応じて構築していってください。

（ア）避難者とその人の情報を示すカード

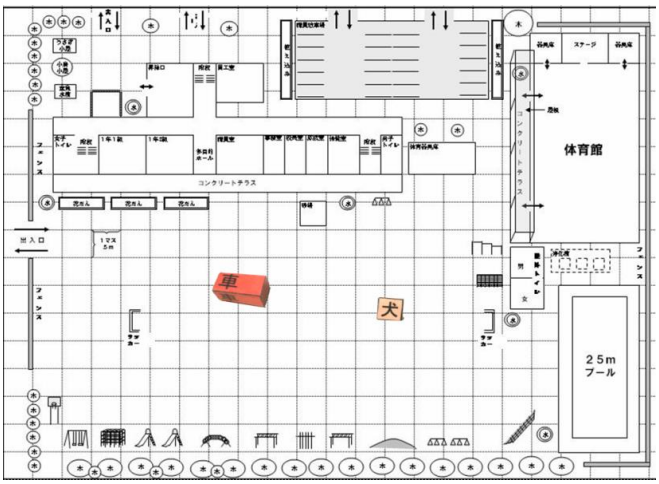
- このカードの面積は、大人一人が毛布を敷いて、荷物を置いて寝る大きさです。



- 7時間(※実際のゲーム時間は 70 分)の間に約 200 人の避難者が次々と押し寄せます。
- 常に 30 枚程のカード(避難者)が押し寄せている状態です。
- 話し合いながらスペースを割り当てていってください。
  1. 書きこみ可　→　体育館や教室などの見取り図
  2. 書きこみ不可→　避難者のカード
  3. 付箋紙は自由に使用できます

（イ）割り振るスペース

- 体育館と教室のシートは、避難者カードのサイズに合わせてつくってあります。
- 全体見取り図は縮尺が異なるので、スペースを割り当てるときは小道具（自動車、ペットなど）を使用してください。



（ウ）イベント

- 4分に1度、何らかの出来事が起こります。（カードを読み上げます）
- その都度、グループ内で話し合いながら対処していってください。

（エ）気付き

- ゲームを進める中で、
  - 気づいたこと
  - 工夫したこと
  - 苦労したこと

を付箋紙などにメモしていってください。これは、後に共有の時間に活用します。

（オ）テーブルホストの役割

- 合計約 200 枚の避難者カードを逐次提示していきます。
- 原則的に質問には答えないこととしますが、必要に応じてアドバイスする場合もあります。

5. イベント

① 観測さん(父)がブレーカーを落とすために一旦自宅に帰りたいと言っています。（出来れば場所をとっておいてほしい）

② 無線さんはこちらに来ていますか？という問い合わせがありました。

③ トイレを流すために、プールから水をバケツリレーする必要がありますが、人手が足りません。

④ 使い捨てカイロが 20 人分届きました。避難者に配ってください。

⑤ 赤ちゃんの授乳やおむつ替えができる場所をつくってほしいのですが。と言っている人がいます。

⑥ 電池式の灯油ストーブが 1 台届きました。教室 1 部屋で使うことができます。

⑦ 毛布が 20 枚届きました。避難者に配ってください。

⑧ 噴火さん(55 歳女性)、大隅さん(36 歳男性)にインフルエンザの疑いがあります。

⑨ 着替えができる場所をつくってほしいのですが。と言っている人がいます。

⑩ 貯まっていたプールの水を近隣の消火活動で使いきってしまったため、トイレの処理ができなくなってしまいました。仮設トイレが設置されるまでの対策を考えてください。